

＜教育報告＞

ママパパ対象の歯科保健実態調査に基づいた成人歯科保健サービスの検討

近藤良伸, 片岡大輔, 井上五月, 梅本智夫
栗原南海子, 谷村千里, 古川聖子, 松下哲也

平成16年度合同臨地訓練 第1チーム

A study on dental health services for adults based on the survey for young “moms and dads” in Matsudo City

Yoshinobu KONDOU, Daisuke KATAOKA, Satsuki INOUE, Tomoo UMEMOTO,
Namiko KURIHARA, Chisato TANIMURA, Seiko FURUKAWA, Tetsuya MATSUSHITA

要旨

松戸市では8020運動を達成するために、乳幼児から高齢者に至るまでの歯科保健事業に積極的に取り組んでいる。合同臨地訓練を始めるにあたって、我々と松戸市は話し合いの場を持ち、①成人歯科保健に対する住民の意識の実態把握が十分に行われていないこと、②どの年齢層に対しどのような事業を実施すればよいか明確な方向性を打ち出せない状況にあること、が明らかになった。松戸市からは、20歳以上の住民を対象とした基礎的な意識調査を実施してほしいとの要望が出された。チーム内では、歯周疾患が増加し始める20～30歳代からの予防が特に必要であると考え、子どもへの波及効果が高く、生活習慣や行動の変容が期待できる若い親を対象とした調査を含む3調査案を提案した。松戸市との協議の結果、高い回収率が見込めるうえに、現在の事業を改善して将来具体的な事業化へと繋げることができる、1歳6ヶ月児健康診査、3歳児健康診査を受診する児の保護者（ママパパ）を対象とした調査を実施して今後の取り組みについて検討することにした。調査では、妊婦歯科健康診査の受診率が低いこと、ママパパは歯や口に関する困りごとを持っている人が多いこと、ママだけでなくパパも予防に関する関心が高いこと、親子で受けられる歯科健康診査を希望している人が多いこと、などが明らかになった。

これらの調査結果をふまえた上で、以下の4点を柱とする提言を行った。

1. 妊婦歯科健康診査のPRの強化と内容の充実
2. 子どもの健康診査の機会を利用したママパパに対する歯の健康相談・教室の開催
3. 父子で受けられる歯科健康診査の機会の確保
4. パパも参加する歯の健康教室の開催

この提言のあと、松戸市は実現可能な事業の実施に向けて動き始めた。その第一歩として、

1. 「すぐできる！」歯科衛生士で相談し取り組めるもの12項目
2. 「近い将来できるかも！」課内で検討し承諾を受け、取り組めるもの6項目
3. 「遠い将来できるかも！」予算確保や制度自体の見直し・再編が必要なもの3項目

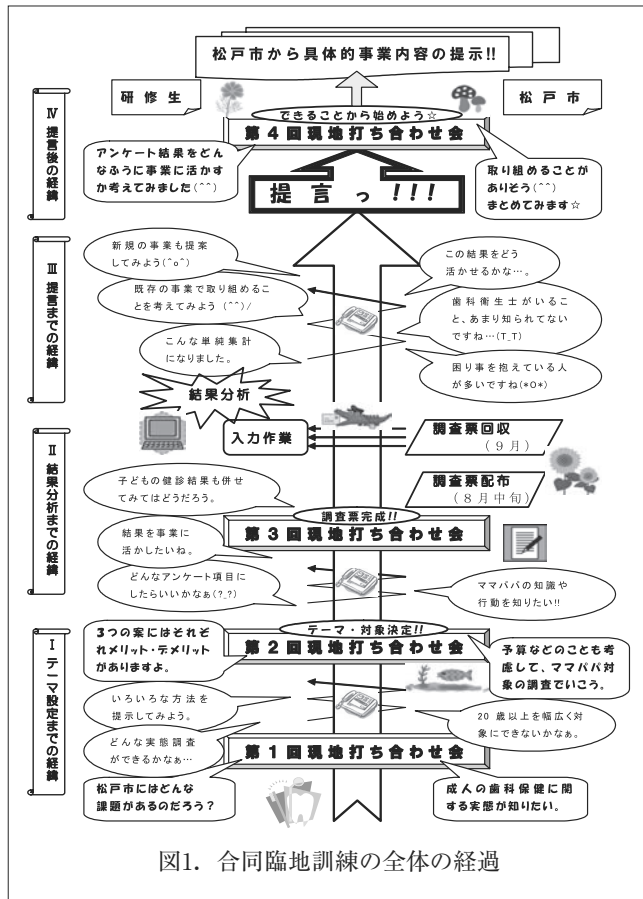
合計21項目の各事業における取り組み内容の提示があった。

以上のような過程を経て、松戸市のママパパを対象とした歯科保健サービスの協同による進展に向けて、その方向性を明らかにするなどを通じて成果を示すことができた。

キーワード：歯科保健, 子育て世代, 母子保健, 父子, ママパパ

指導教官：青山旬（口腔保健部）、畑栄一（研修企画部）

中板育美（公衆衛生看護部）、栗田仁子（福祉サービス部）

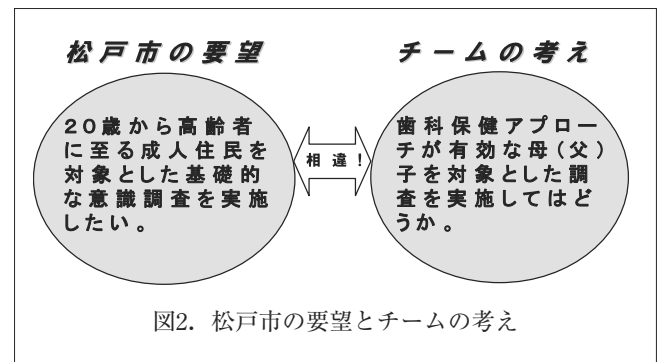


1-2-2 松戸市からの要望

松戸市では、成人歯科健診等の健診受診者数を増加させる必要があると認識していたが、住民の意識の実態把握が十分に行われていないため、今後の対策の方向性を検討するための基礎データの不足に困っている状態であった。そこで、今回の合同臨地訓練では以下のような20歳以上の成人住民を対象とした基礎的な意識調査を実施してほしいという松戸市からの要望が出された。

松戸市から調査の要点として当初提示された項目は以下のとおりである。

- (1) 成人の歯や口腔の健康に関する意識調査
- (2) 成人歯科健診の事後調査
- (3) 受診者の増加が見込める魅力的な歯科健診
- (4) 理想的な歯科医院像



I. テーマ設定までの経緯

1 フィールドでの経緯

1-1 地域の概要

松戸市は千葉県東葛地域（北西部）に位置しており、都心から20km圏にあり、東西11.4km、南北11.6km、面積は61.33km²である。松戸市の組織では、市長事務局に5つの本部があり、そのうち健康福祉に関する事務は健康福祉本部の所掌である。健康福祉本部には社会福祉担当部と児童家庭担当部の2部の他に本部直属の保健福祉課が設置されており、保健福祉センターはその出先機関であって、中央保健福祉センター、常盤平保健福祉センター、小金保健福祉センターの3カ所がある。

1-2 フィールドの課題

1-2-1 松戸市の歯科保健の現状と課題

松戸市では40歳以上の成人歯科健康診査（以下、成人歯科健診とする）を実施しているが、平成15年の受診者数は2,141名であり、対象者のわずか1.1%と受診者数は少ない上に受診者の多くが60歳以上であるため、受診者数の増加、特に若い世代の受診者数を増加させたいとの意向があった。また、平成13年度からは妊婦歯科健康診査（以下、妊婦歯科健診とする）を開始しているが、平成15年の受診者数は921名で対象者の20%とこちらも同様に受診者数が伸び悩んでいるのが現状であった。

表1 第2回現地打ち合わせ会で示した調査案

	テーマ	調査目的	調査対象	調査方法
第1案	成人歯科保健調査	全年齢層の基礎資料収集	住民基本台帳から無作為抽出した住民1,000人	アンケート
第2案	ママパパ対象の歯科保健調査	20～30歳代の若いママパパの基礎資料収集	平成16年9月の1.6歳・3歳児健診を受診する保護者約1,400人	アンケート
第3案	20～30歳代の歯科保健調査	20～30歳代の基礎資料収集	JR松戸駅で帰宅途中の20～30歳代の男女各100人	聞き取り調査

2 チームでの経緯

当初、松戸市の要望については、図3のようにチームとして考えたものと相違していた。このため、松戸市の意向を確認しながら、より有効な調査のあり方についてチームでの検討を積み重ね、現地打ち合わせ会にて表1のとおり3つの調査案を示し調査方法を決定した。松戸市との検討にあたっては、

この調査が現状を把握するためだけの調査に終わらないよう調査結果を住民に還元すべく、それをどう活用できるかをイメージしながら進めていくことを最も重要な点とした。

Ⅱ 結果分析までの経緯

1 調査目的

本調査を行うにあたって、20～30歳代において歯周疾患が急激に増加している現状が千葉県で明らかになっていた。また、子育て世代では子どもの生活習慣形成に対する影響も多大であるために、予防対策を強化する必要がある。このため、20～30歳代のママパパを対象として、効果的な歯科保健対策を実施していくための基礎資料を得ることを目的とした。

2 調査対象

1歳6ヶ月児健康診査（以下、1.6歳児健診とする）と3歳児健康診査（以下、3歳児健診とする）の9月受診対象の保護者1,460人（1.6歳児355人、3歳児375人、計730人の父母）を対象とした。

3 調査方法

3-1 調査内容

調査項目については、

- (1) 平成11年度保健福祉動向調査（歯科保健）¹⁾
- (2) 平成11年度千葉県の歯科保健の実態²⁾
- (3) 30歳代母親の口腔保健におけるヘルスプロモーションの展開～プリシード/プロシードモデルを用いた実態把握～³⁾

を参考に、歯科保健に関する保健行動・意識などママパパそれぞれに35項目の調査票を作成した。

また、親から回答のあった1.6歳児・3歳児健診受診児の健診結果を松戸市から提供してもらい、歯科保健に関する生活習慣、う歯数などの7項目を調査内容に加えた。

3-2 調査期間

- (1) 調査票配布：8月13日

1.6歳児・3歳児健診対象児の問診票配布時に無記名自記式の調査票を同封した。

- (2) 調査回収：9月3日～9月28日

9月に実施された1.6歳児健診（4回）と3歳児健診（5回）において、各健診会場へ保護者に調査票を持参してもらい、回収を行った。

4 集計および分析方法

結果は、「ママ」「パパ」「子ども」について、それぞれ調査票の項目ごとに集計を行い、「ママ」と「パパ」の生活習慣・歯科保健行動や意識の相違を見るために、クロス集計を行った。また、親子の関連をみるために、親子ごとに必要項目についてマッチングを行い、「ママ」「パパ」のそれぞれの

生活習慣・保健行動と「子ども」の歯科保健に関する生活習慣、う歯数などについての関連を分析した。

統計解析には、Excel 2002、FSTATを使用した。

5 調査結果

5-1 回収結果

回収数は、「ママ」547人（1.6歳児273人、3歳児 274人）、「パパ」484人（1.6歳児238人、3歳児 246人）の計1,031人であり、回収率は全体で70.6%であった。子どもについては、1.6歳児273人、3歳児277人で計550人の問診票からのデータを同時に回収した。

有効回答数は、「ママ」546人（1.6歳児273人、3歳児 273人）、「パパ」477人（1.6歳児236人、3歳児241人）で、「ママ」と「パパ」の両方から回答を得られたのは472人（1.6歳児235人、3歳児237人）であった。

5-2 属性

ママの平均年齢は32.5歳、パパの平均年齢は34.5歳であった。ママの職業は専業主婦（無職含む）が最も多く75.5%であった。パパは会社員の割合が最も高く78.2%であった。

5-3 保健行動

「歯ブラシの毛先を入れて磨く」割合、「歯と歯ぐきの境目を意識して歯を磨く」割合は、ママパパともに7割を超えていた。「週に1度以上鏡で歯や歯ぐきを注意して見る」割合はママで45.1%、パパで31.9%であった。

5-4 受診に対する意識・行動

「歯や口の中に困り事がある」割合はママパパともに6割を超えていた。「歯科医院へ行くことに抵抗を感じる」割合は、ママで55.1%、パパで43.8%であった。その理由をさらに尋ねると、ママでは「子どもを見てくれる人がいない」「時間がない」とする回答が多く、パパでは「時間がない」とする回答が多かった。「この一年間で清掃用具（歯ブラシ・デンタルフロス等）の使用方法について指導を受けた」割合はママでは24.4%、パパでは19.1%であった。「むし歯を予防できると思う」割合は、ママパパともに8割弱であり、「歯周病を予防できると思う」割合は、ママパパともに7割を超えていた。

5-5 健診・健康教室への参加意欲

「松戸市の妊婦歯科健診を受診した」割合は18.5%であり、受診しなかった理由は「知らなかった」「必要性を感じなかった」「利用時間が合わなかった」という回答が多かった。パパでは「妊婦歯科健診にあわせて父親の歯科健診を実施するとしたら受けたい」とする回答が52.0%であった。

5-6 生活習慣

「甘いコーヒー、ジュースを飲む」割合は、ママでは「よく飲む」が20.3%、「ときどき飲む」が59.9%であった。パパでは「よく飲む」が37.9%、「ときどき飲む」が43.2%であった。子どもの健診時の問診票から「甘い飲み物を飲んでいる」子どもの割合は76.0%であった。

5-7 情報の普及度

「松戸市の歯科保健センターに歯科衛生士がいることを知

っている」割合はママ18.7%, パパ5.9%であった。「広報まつどをみている」と回答したママは71.1%, パパは31.3%であった。「松戸市のホームページを見ている」割合は、ママ36.3%, パパ22.9%であったが、「松戸歯科医師会のホームページを見ている」と回答しているママパパはほとんどいなかった。

「歯の健康に関するどんな情報を知りたいか」では、ママパパともに「予防」を回答している割合は高く、ママは43.8%, パパは52.6%であった。

Ⅲ 提言までの経緯

1 調査結果から提言に至る経過

単純集計, クロス集計ともにどのような視点で解析を進めるかについて、常に松戸市と検討し、その結果を共有することに努めた。松戸市による集計結果の解釈を踏まえた上で、若いママパパとその子どもを対象とする施策を提言するという本調査の本来の目的に沿って提言内容を導出し、松戸市に提示した。

2 提言

第4回現地打ち合わせ会において松戸市に対してアンケート結果を基にした事業案を提示した(図3)。

2-1 妊婦歯科健康診査のさらなる発展を目指して

受診率向上を図るには、「知らなかった」ということのないように周知方法を工夫する必要があるため、「広報まつど」

に妊婦歯科健診についての情報を載せる、母子健康手帳交付時に十分なPRを行うなどの方法も有用であると考えた。歯科医師会のホームページには土日・夜間を含む開業時間の情報が掲載されているが、実際に見ている人はママ2.7%, パパ0.3%と少なかったため、歯科医師会のホームページに開業時間などの情報が掲載されていることを伝えていく。さらには、歯科医師会の協力を得て、健診の時間調整を行い利用時間の拡大を図ることで、受診に関する環境整備につながるのではないかと提案した。

妊婦歯科健診を「受診した人」は「受診しなかった人」に比べて、「歯と歯の隙間に歯ブラシの毛先を入れて磨く」割合、「歯と歯ぐきの境目を意識して磨くようにする」割合が高かった。3歳児のう歯罹患は、「受診しなかった」ママの子どもで高かった。妊婦歯科健診に参加することで、正しいブラッシング方法を習得するママが増え、子どものう歯予防にも効果を見出せる可能性がある。また、妊婦歯科健診時に、子どもの歯への影響についても健康教育を行うなどの内容の充実を図ることを提案した。

「妊婦歯科健診に合わせたパパへの歯科健診」は現在実施されておらず、新規事業実施に向けての検討も必要である。

2-2 1歳6ヶ月児・3歳児健康診査におけるママパパへのアプローチ

歯科医院へ行くことに抵抗がある理由として「子どもをみてくれる人がいない」と答えたママでは、「子どもの健診時にあわせて健康教室に参加したいとする人」の割合が高かった。歯や口の中に困りごとがあるママパパは6割以上であっ

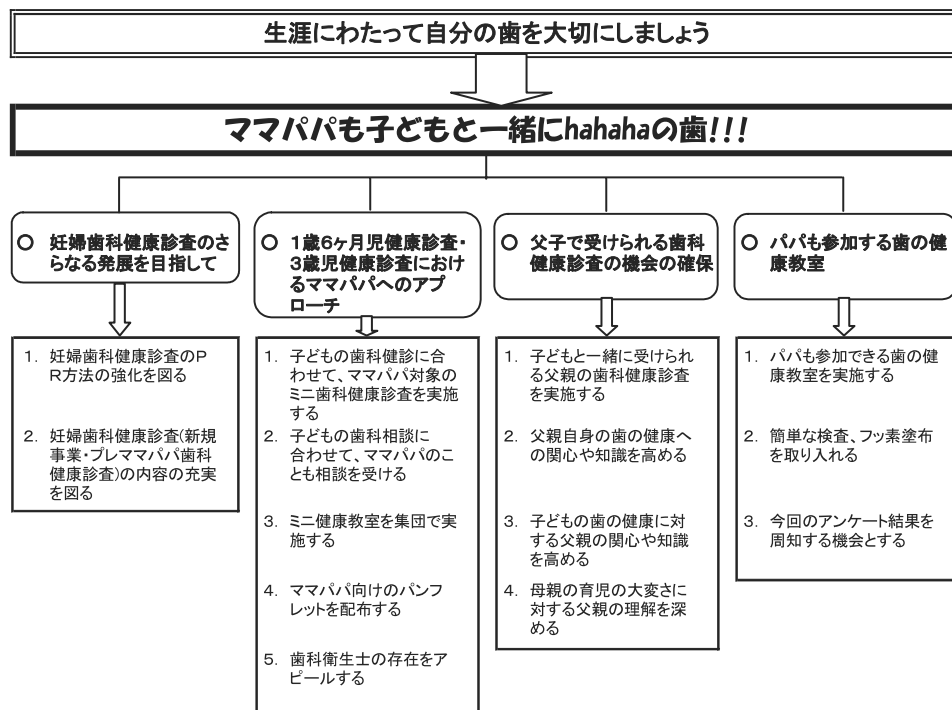


図3 調査結果を踏まえ松戸市に提案した事業案

たが、困りごとがあっても歯科医院を受診するママは49.4%に留まった。そこで、子どもの健診時にママパパ対象のミニ歯科健診や歯科に関する相談を実施すれば、う歯・歯周疾患の予防や早期治療につながる可能性があるとして提案した。

ママが歯と歯の隙間に歯ブラシの毛先を入れて磨いていると子どもの仕上げ磨きの回数は多く、ママが甘い飲み物をよく飲む習慣があると子どもも甘い飲み物を飲んでいて($p<0.01$)。また、食習慣については夫婦間でも関連を認めた($p<0.05$)。従って、健診の場でママに歯の健康に関する健康教育を行うことは、パパや子どもの歯にもよい影響があると考えた。

歯の健康に関する情報として歯科疾患の予防についての関心が高かったため、健診時にママパパ向けの歯の健康に関するパンフレットを配布することが必要であると提案した。松戸市の保健福祉センターに歯科衛生士がいることを知っている割合は少なかった。松戸市が提供している様々な保健サービスの場面において、歯の困り事を抱えているママパパがタイムリーに相談できるようにするには、歯科衛生士の存在を知っている必要がある。

2-3 父子で受ける歯科健診の機会の確保

これは1.6歳児と3歳児の中間に2歳児歯科健診を創設し、パパの健診を同時開催することで、パパ自身と子どもの歯の健康に対する関心や知識を高めることをねらいとするものである。

ブラッシング指導を受けたことがあるパパは、歯科医院で受けていた割合が81.3%と高かった。歯科医院に抵抗があると回答した理由は「時間がない」が29.1%と最も多かったため、時間調整が容易で土日受診可能な個別健診が有効であると提案した。

口腔内の清掃用具について指導を受けたことがないパパよりも受けたことがあるパパの方が、毛先を入れて磨いている割合が高く($p<0.01$)、また健康教室に対する要望としてブラッシング指導を挙げたパパは30%に上った。パパの予防に対する関心が高いため、健診時に口腔内の清掃用具の選び方と使い方の指導、歯や歯ぐきの健康を保つ生活習慣、食事の内容や摂り方についての指導、う歯・歯周病の具体的な予防方法を伝えることにより、パパ自身の意識・行動の変容につながるのではないかと考えた。

甘い飲み物をよく飲むおよび時々飲むパパの子どもは、飲まないパパの子どもよりも甘いものを飲んでいる割合が高かった($p<0.01$)。パパに対しても子どもに与える影響を考慮して、子どもの歯の磨き方や食事の内容についての指導が必要と考えた。

2-4 パパも参加する歯の健康教室

現在松戸市の「わんぱく歯科くらぶ」事業の一環として行われている子どもの歯みがき教室やフッ化物歯面塗布には、ママが連れてくることがほとんどである。ママパパ、特にパパに対する普及啓発の場として、6月上旬の口腔保健週間の土日に健康教室を開催することを提案した。

健康教室に参加したいと思っているパパの割合は37.5%、

ママでは44.5%であった。内容・機会については簡単な検査、親子で受けられる歯科健診への要望が多かった。パパの7割は、う歯・歯周病は予防できると考えていたが、フッ素のことを知りたいとする回答は18%に留まった。健康教室の実施内容として、具体的には要望の多かった簡単な検査(染め出し・唾液潜血検査等)を実施し、関心の低かったフッ素などの情報を伝えることが、ママパパの口腔疾患の予防に対する意欲を高めることにつながると考えた。さらにわんぱく歯科くらぶへの参加を促し、子どもへの波及効果を期待している。

IV 提言後の経緯

1 事業改善案の作成

前述の提言について第4回現地打ち合わせ会で松戸市とチームとの間で意見交換を行った。その後松戸市はこの提言を受け、歯科保健事業の一層の改善に向けて検討を始めた。最初の段階として、歯科衛生士が中心に今後の歯科保健事業の実施における改善や新たな取り組みが可能な具体的方法を検討し、実現可能性を考慮した事業内容を以下のようにまとめ、提示された。

実現可能性については、それぞれ「すぐできる!」(歯科衛生士5人で相談して取り組めるもの)「近い将来できるかも!」(課内で検討し承諾を受け取り組めるもの)「遠い将来できるかも!」(予算確保や制度自体の見直し・再編が必要なもの)と3つのカテゴリーに分類した形で、各事業における取り組み内容が松戸市から提示された(表2)。

2 合同臨地訓練現地報告会

歯科保健事業の改善や新たな取り組みへの動きをより具体的なものにするため、合同隣地訓練の現地発表会を管理職や他職種、歯科医師会へのアピールの場として活用したいとの松戸市の歯科衛生士からの声を受け、上記に視点を重視して現地発表会に臨んだ。当日は、松戸市より20名、松戸市歯科医師会より3名、松戸保健福祉センター(保健所)より1名の参加があり、合臨チームの発表を受け、活発な議論、意見交換が交わされた。主要な意見として、歯科衛生士からは「今後の取り組みの方向性が明確になって、元気ができた」「すでに事業の改善できる部分から取り組みを始めている」など、他職種からは「ママから子ども・パパへの波及効果を考慮した関わりをしたい」「普段、仕事の中で感じていたこと(親自身の保健行動の子供絵の影響など)がこの調査で確認できた」など、歯科医師会からは「歯科医師会のホームページが知られていないことがショックだった」「この調査を受け歯科医師会でも対策を考え、松戸市との連携をいっそう進めていきたい」などがあげられた。

以上のように松戸市では、今回の調査結果を踏まえ、今後の歯科保健のより一層の充実に向けて具体的な取り組みを開始している。

表2 提案を受けて松戸市が提示した実現可能な具体的事業案一覧

	妊婦歯科健診	1.6歳児・3歳児健診	わんぱく歯科くらぶ※1	口腔保健週間	ママパパ学級※2	他の取り組み
すぐできる！	①歯科医師一覧票に歯科医師会のホームページアドレスを載せる ②歯科医師一覧票の裏に妊婦歯科健診のPR、歯科事業、歯科医院の紹介を載せる ③受診券の渡し方の工夫	①ママ・パパ向けの歯科保健情報を載せたパンフレットの配布 ②パンフレットに歯科医院の紹介を載せる ③わんぱく歯科くらぶの案内を、パパの参加を促す一文を載せて配布	①ママ・パパの歯科相談 ②チラシ・案内文にパパの参加を促す一文を入れる	①フロス・歯間ブラシコーナー、ホームジェル(フッ素)コーナー、子供の仕上げ磨きコーナー、えん下体操コーナーなどを設ける	①健康教育の媒体の検討・工夫	①歯科衛生士の存在をPR(パンフレット・名札・壁面などの活用) ②健康教育の内容にアンケート結果で要望の高かったものを盛り込む工夫
近い将来できるかも！			①ぞう組(フッ素塗布)でママ・パパの歯科健診 ②親子で受けられる歯科健診	①パパを含めた親子で参加できるコーナーを考える	①フロス・歯間ブラシの使い方のレクチャー	①健康だよりにより歯科の保健情報を載せる ②健康だよりにより歯科医院の紹介を載せる
遠い将来できるかも！			①カリオスタット(齲蝕活動性試験)・サリバスター(唾液潜血検査)などママ・パパができる検査の実施		①サリバスター(唾液潜血検査)の実施	①成人歯科健診の対象年齢の引き下げ

※1 子どもの歯みがき教室、フッ素塗布事業として実施

※2 初妊婦とその夫を対象とした健康教育として実施(両親学級)

謝辞

今回の調査を実施するにあたり、お忙しいなかご協力いただきました松戸市の住民の皆様方ならびに千葉県松戸市保健福祉課の皆様には厚くお礼申し上げます。

文献

- 1) 厚生労働省官房統計情報部. 平成11年度保健福祉動向調査(歯科保健). 2001.
- 2) 千葉県衛生部保健予防課. 平成11年度千葉県の歯科保健の実態 千葉県歯科保健意識の実態. 2000.
- 3) 塩津敏子, 小山絵理, 出口みや子他. 30歳代母親の口腔保健におけるヘルスプロモーションの展開～プリシード/プロシードモデルを用いた実態把握～. 東京都衛生局学会誌 2001; 105: 312-3.